武家政権づくりに貢献した誇り高き東国武者

为建立武家政权做出杰出贡献，极尽荣耀的东国武者

千葉常胤公ものがたり

千叶常胤公的传说

源頼朝をして「父」と呼ばしめた男

被源赖朝称为〝父亲〟的男人

千葉市

主な登場人物

主要登场人物

源 頼朝
（1147－1199）
源赖朝

義朝の子。平治の乱で平氏に敗れて伊豆に流されました。1180年平氏打倒のため挙兵し、千葉氏などの助けをかりて武家政権（鎌倉幕府）を立てました。

源氏统帅。借千叶氏一族之力推翻平氏，建立了镰仓幕府。

千葉常胤
（1118－1201）
千叶常胤

常重の子。頼朝に味方して源平合戦などを戦い、鎌倉幕府の成立に大きく貢献しました。このため千葉氏は大きく発展しました。

赖朝的支持者，为镰仓幕府的建立做出了极大贡献。由于他的努力，千叶氏取得了长足发展。

源 範頼　源范赖

頼朝の弟。頼朝に従って、源義仲・平氏を追討し、平氏滅亡後は九州を平定しました。

赖朝之弟。跟随赖朝推翻平氏。

源 義朝　源义朝

頼朝の父。保元の乱で活躍しましたが、平治の乱で平清盛に敗れ、東国へ逃げる途中で討ち取られました。

赖朝之父。在平治之乱中败给平清盛后被杀。

千葉胤頼　千叶胤赖

常胤の六男。京で警護の仕事をしていたので、京の情勢を常胤や頼朝に伝えていました。

常胤之六子。将京都的形势传达给常胤及赖朝。

千葉胤正　千叶胤正

常胤の長男。源平合戦、奥州合戦に常胤を助けて参加しました。常胤の跡を継いで千葉氏の惣領になりました。

常胤之长子。在多次战役中襄助父亲，接替常胤领导千叶氏。

平 清盛　平清盛

平氏武士団を率いて、保元、平治の乱に勝ち、朝廷内での地位を固め、全国に力を及ぼしましたが、源平の争いが本格化する前に死去しました。

平氏统帅。在平治之乱中战胜了义朝，巩固了其在朝廷的地位，并将势力布及全国。

上総広常　上总广常

房総平氏惣領家のかしらであり、東国最大級の勢力を誇っていました。広常が加わったことで頼朝挙兵が成功したとも言われています。

千叶常胤同族。房总平氏首领，其势力远远超过千叶氏。

千葉常重　千叶常重

常胤の父。緑区大椎に本拠を構えていたときに大椎を名乗っていましたが、中央区亥鼻付近へ本拠を移し千葉を名乗ったと言われています。

常胤之父。将据点迁至现在的千叶市中央区，自称千叶。

平 高望　平高望

桓武天皇のひ孫。889年頃平の名をもらい、上総介として京から関東にやって来ました。子孫は南関東一帯に広がり、千葉氏もその一つです。

桓武天皇后裔。889年被赐姓为平，后迁至房总（现在的千叶县）。

和田義盛　和田义盛

頼朝の挙兵に参加しました。源平合戦、奥州合戦に従軍して活躍しました。

赖朝的家臣。追随赖朝举兵，在战役中大放光彩。

安西景益　安西景益

頼朝が房総へ逃れてきた後、頼朝を助け、源平合戦を戦いました。

赖朝的家臣。赖朝逃到房总后，前来襄助赖朝。

安達盛長　安达盛长

頼朝が伊豆にいた時からの家来です。石橋山の戦いの後、共に房総へ逃れ、常胤を味方へつけた人物とされています。

赖朝的家臣。说服常胤，加入赖朝阵营。

・据说 1100 多年前，桓武天皇的后裔平高望受命从京都来到房总担任长官。平高望的后裔与当地权势者的女儿联姻，逐渐扩大在房总的势力。他们开荒种地，铸铁养马。

第1章 武士の起こりと千葉氏

第1章　武士起源及千叶氏

※1 桓武天皇：737-806。平安京に都を移した天皇です。
※2 上総介：上総の国（千葉県中部）の実質的な長官でした。

・就这样，他们在各地积蓄了强大的力量，并组织起武士团。后来的千叶氏就是其中的一支。
・当时朝廷式微，各地关于领地及资产的争斗频起。

※領地：武士などが所有し支配する土地のことです。

・他们为了巩固自身地位，欲与强大的武士源氏或平氏等结盟。房总武士团就与源氏结成牢固的同盟。
・1126年6月，平高望的后裔常重，将据点迁至千叶并自称“千叶”。这便是千叶氏诞生及千叶町的由来。后来常重之子常胤继承了常重的意志。

※主従関係：「主人」と「従者（＝家来）」の関係です。
主人が家来の土地支配を認め（ご恩）、家来は主人に尽くします（奉公）。

・1156 年的保元之乱中，常胤追随源氏的源义朝作战，进一步巩固了联盟。而 1159 年的平治之乱中，源氏败于平氏。

保元の乱※1（1156年）
ドドド

・以此为转折点，源氏一方的千叶氏在房总的势力渐微。而平清盛率领的平氏拥有了极大的权势。

・义朝之子源赖朝也参加了平治之乱，虽因年幼被免去死罪，却被流放到距离京都极远的伊豆。
・20 年后，后白河天皇的皇子以仁王激发起大众对平氏的不满，继而揭竿而起。赖朝也接到了邀请他加入战斗的书信。

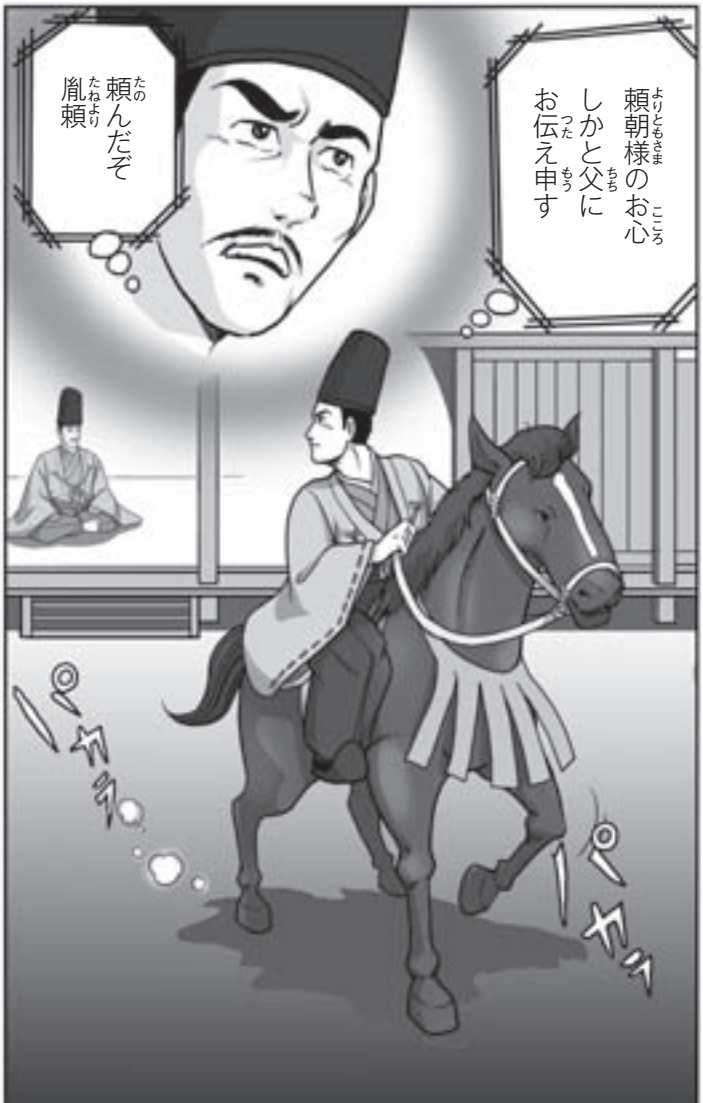
※1　流罪：刑罰の一つで、罪人を遠く離れた地や島に送る『追放刑』です。
※2　後白河天皇：1127―1192。源平の争乱期に、朝廷の権力を保ちました。

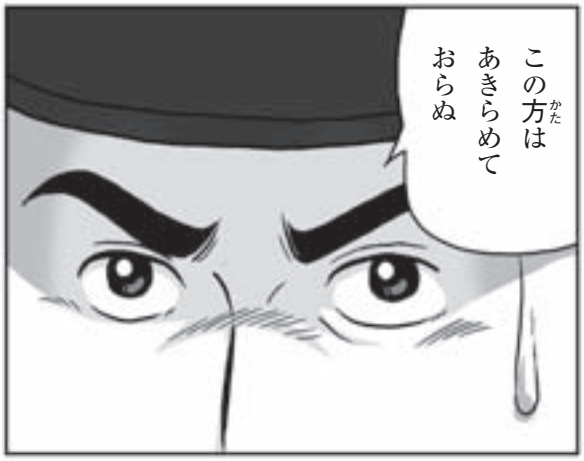
※3 以仁王：1151-1180。後白河天皇の皇子（天皇の息子）。平氏を討ち取る計画をたて、全国の源氏に兵を挙げて戦うように命令を出し、自らも挙兵しましたが、その戦いで亡くなりました。
※4 手紙：令旨といって、皇族が出す命令書でした。

・不久，常胤第六个儿子胤赖探访了犹豫不决的赖朝，告诉赖朝身为源氏嫡系此刻也危机四伏。

※１このとき、三浦義澄も一緒に頼朝を訪れています。
※２嫡流：一族の直系の血筋のこと。主に惣領（跡取り）と正妻の間に生まれた長男によって継がれる血筋を意味します。

・赖朝向胤赖表明了自己想打倒平氏的强烈意愿。为了将赖朝的决定告诉父亲常胤，胤赖告别了赖朝。





· 1180 年 8 月，赖朝终于在伊豆举兵，与平氏开战。

第2章　頼朝の挙兵

第2章　赖朝举兵

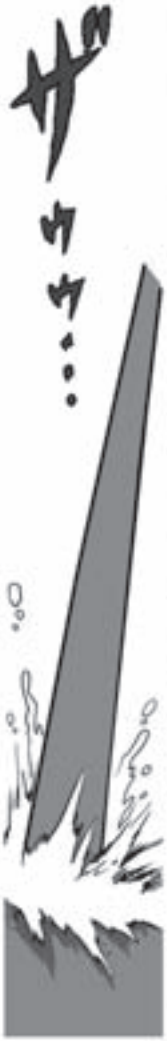
※合戦：8月17日に頼朝は挙兵し、伊豆目代（代官）山木兼隆を討ちました。その後、相模国の石橋山で平氏方（大庭景親）と対しました。

・初战告捷的赖朝，在接下来的石桥山之战中被敌军围困，失去了众多家臣。

・赖朝避过敌人耳目逃进山中，因大雨未能与援军会师，不得不退兵。

・战败后的赖朝意图在房总东山再起，决意乘舟渡海。

・因为房总有千叶常胤等愿意跟从源氏的武士团。赖朝决定依靠他们。



・赖朝带着仅有的家臣渡海，终于抵达了房总。可是这里也有很多想取赖朝性命的敌人，赖朝只好暂时隐姓埋名躲在同一阵营的安西景益处。

第3章　頼朝と常胤

第3章　赖朝及常胤

※頼朝が辿り着いたのは、房総半島南部（現在の千葉県鋸南町もしくは館山市）だと言われています。

・赖朝立刻派出部下安达盛长出使千叶常胤。常胤与儿子胤正、胤赖一起出迎。

・安达盛长转达了赖朝需要常胤助力的要求，常胤爽快地表示愿意参加与平氏的战斗。

・常胤有感于赖朝一开始就依靠自己，并回想起近几年被平氏势力压迫的艰辛，认为可借源氏复兴这一良机重振千叶氏家族，而久久无言。

・后来，常胤与赖朝的军队会师。常胤提出最适合源氏东山再起的据点是镰仓。

※ひと働き：頼朝と面会する前に、平氏側の勢力であった下総の目代（代官）を常胤が討ち取ったことを指します。

・常胤虽然年老仍尽心为赖朝效力，成为了赖朝的精神支柱。赖朝也对常胤有如父亲一般的孺慕，两人之间的关系日益亲密。

・赖朝为得到房总强大的武士团上总广常的协助，派和田义盛出使。广常和常胤不同，非常犹豫是否加入赖朝阵营。
・迟迟不作回复的广常终于让赖朝失去了耐性。赖朝下令不等广常直接出兵。

・广常被此所慑，率兵与赖朝会师。然而不仅没有得到赖朝的褒奖，反而引来了斥责。感受到赖朝强烈决心的广常决定追随赖朝。
・以此为机，赖朝军势力壮大，并采纳了常胤的进言，将镰仓作为据点。

※畏敬の念：偉大な人を、おそれうやまう気持ち。

・得知赖朝在房总东山再起的平清盛大为恼怒，派出大军讨伐，然而在富士川之战中被赖朝军击溃。
・赖朝意一鼓作气将目标直指京都，常胤进谏赖朝先巩固关东地区。

※富士川の戦い：1180年10月。富士川（静岡県東部を流れる川）を挟んで源平両軍が向かい合っていましたが、夜中の水鳥の羽音や、舟のかがり火に驚いた平氏が戦わずに逃げたことが知られています。

・事实上，关东地区仍还存在很多敌对势力。赖朝接受了常胤的进谏，首先平定关东地区的敌对势力。

· 1182 年 8 月，源氏及平氏两军持续对峙。与此同时，在镰仓，赖朝的长子出生，庆祝仪式由常胤全权操办等，赖朝对常胤的信任坚不可摧。

※七夜の儀：子どもの誕生をお祝いする儀式のうち、生まれてから七日目の夜に行う儀式のこと。
親族や縁者が、食物や衣服、道具や家具などを贈ります。

・终于，源氏及平氏的战斗白热化，常胤马不停蹄亲自参战。一之谷之战中，与赖朝的弟弟源范赖共同出战，并战胜了平氏。

※一ノ谷の戦い：1184年2月。今の兵庫県神戸市で行われた源平の戦い。源義経、範頼が率いた源氏方が勝利しました。

・1185 年，赖朝军在坛之浦之战中终于消灭了平氏。并乘胜追击继而平定了九州全部残余的平氏势力。
・平氏灭亡后，敌对势力就剩盘踞奥州的藤原氏了。常胤在攻打奥州时被任命为东海道大将军。

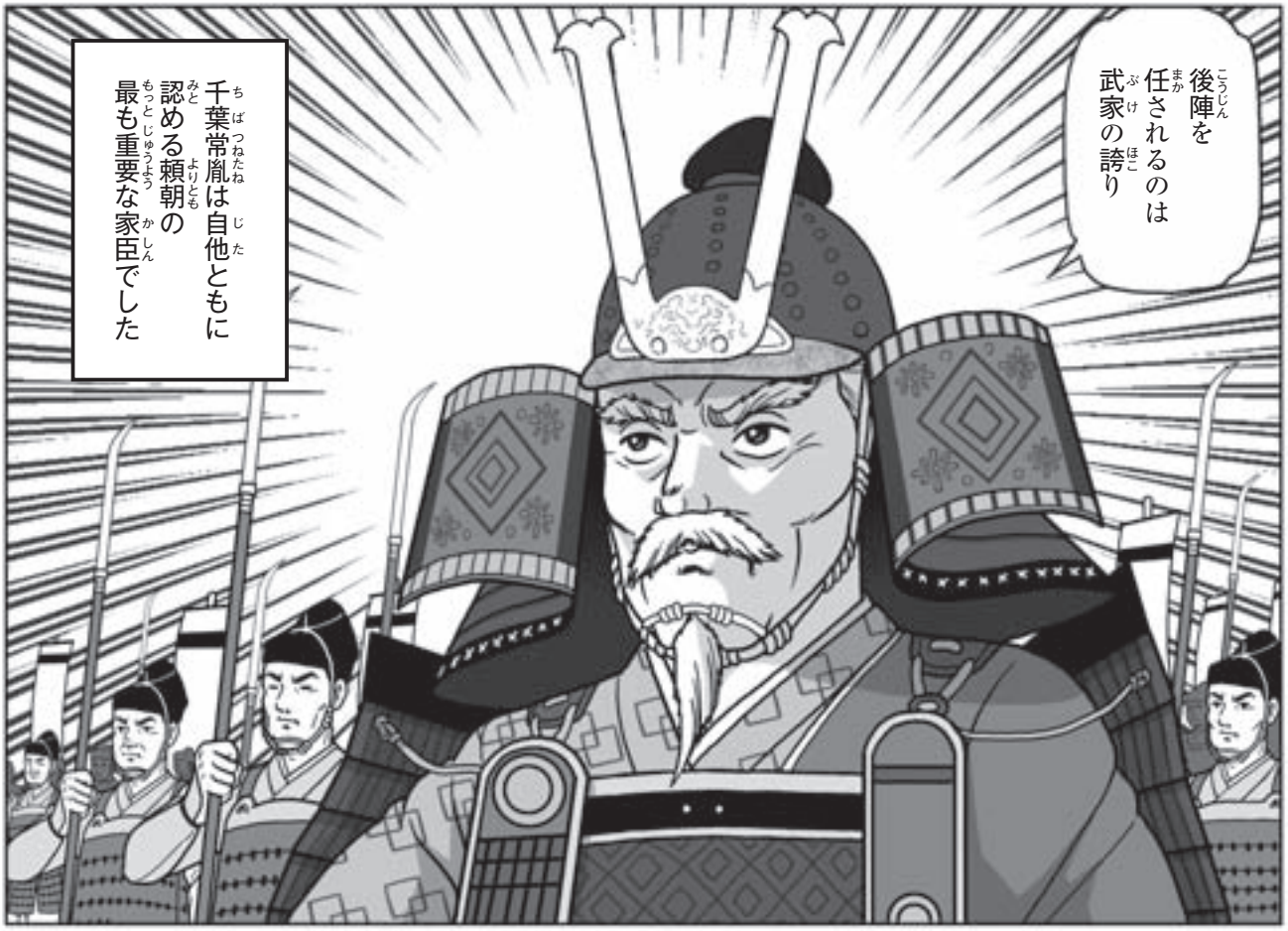
※1　壇ノ浦の戦い：1185年3月。源平最後の戦い。この戦いで平氏は滅びました。
※2　奥州藤原氏。平安時代末期の約100年間、今の岩手県平泉町を本拠として東北地方を支配した一族。

※3東海道大将軍：頼朝は軍勢を大手軍・東海道軍・北陸道軍の三軍に分けて奥州藤原氏を攻めました。
このとき常胤は東海道軍の大将を務めました。

· 1189 年，常胤以 70 岁高龄之身进军奥州，攻破藤原氏，结束了长期的战争。
· 如此千叶常胤为源赖朝建立武家政权做出了极大的贡献。

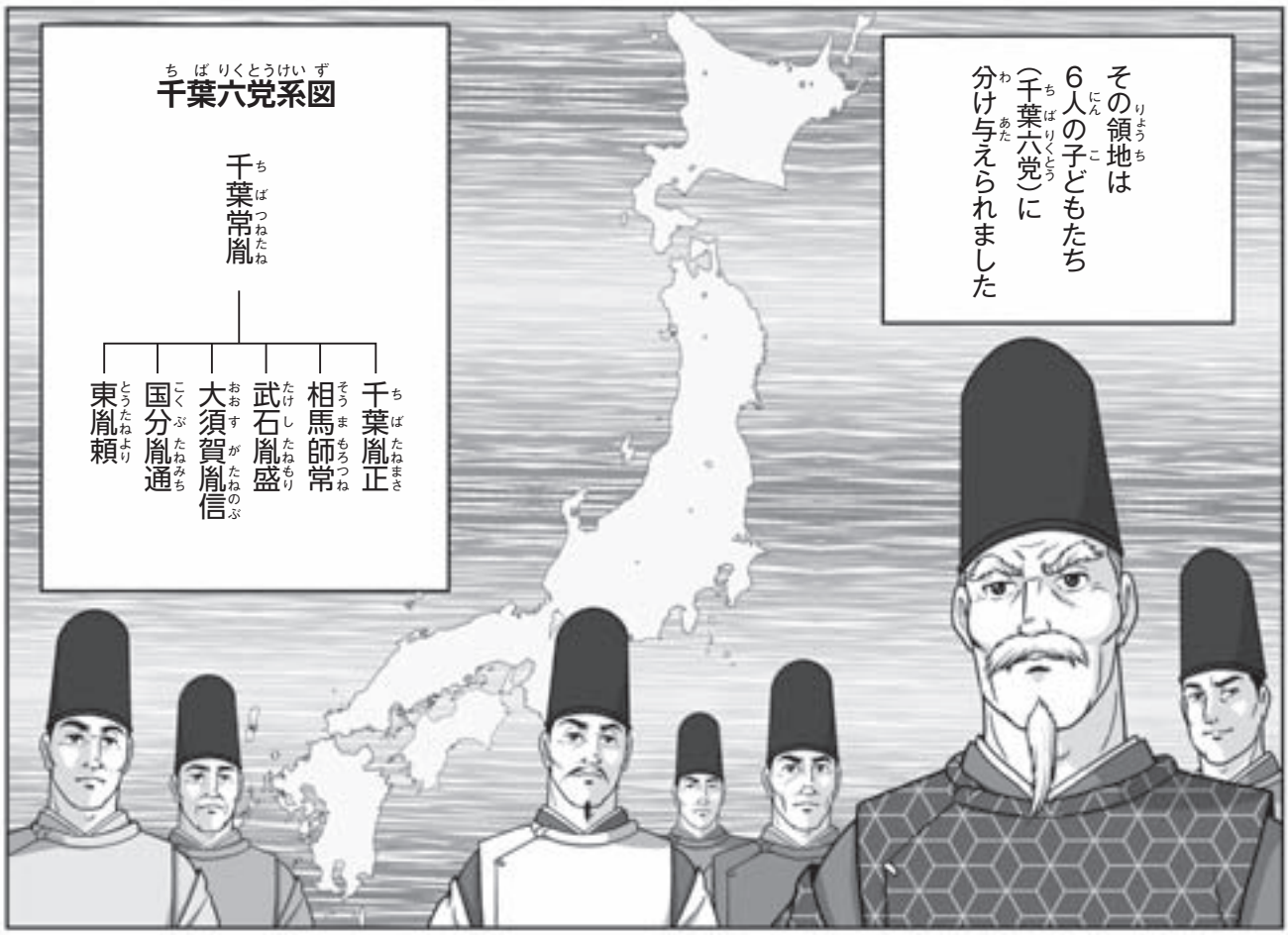
※武家政権：武家のかしらをたばね、支配するしくみのこと。

・常胤作为赖朝最重要的家臣极得宠信，在源赖朝进京期间于后方压阵，担任了非常重要的角色。

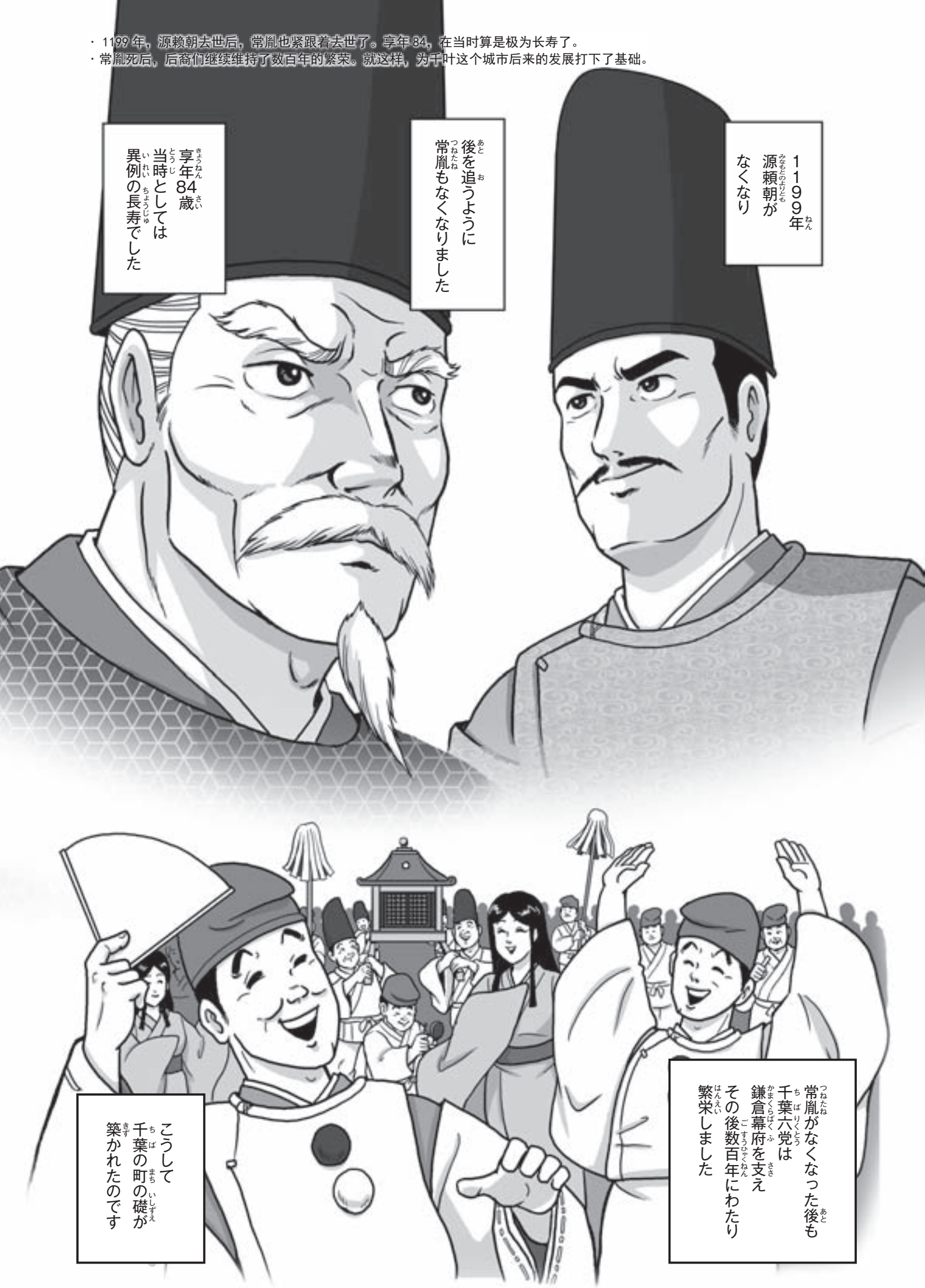


※１上洛：地方から京の都に向かうこと。
※２後陣：軍隊で、本隊の後ろに配置した隊のこと。後方からの攻撃に備えるので、その役はとても難しく、
頼朝の信頼が厚かったことがうかがえます。

・基于在战争中的贡献，常胤在全国各地都得到了封地。在常胤的不懈努力下，千叶氏得到惊人的飞跃发展。
・获封的领地被分给了六个儿子（千叶六党）。



・1199年，源赖朝去世后，常胤也紧跟着去世了。享年84，在当时算是极为长寿了。
・常胤死后，后裔们继续维持了数百年的繁荣。就这样，为千叶这个城市后来的发展打下了基础。



「常胤の大功においては、
生涯さらに報謝を尽くすべからざる」

源頼朝

常胤的丰功伟绩，毕生难报。

常胤の大きな功績には、生涯をかけても報い切れない。

源 頼朝

平成28年３月発行

マンガ：小山規（漫画化伝説）
印刷・製本：第一資料印刷株式会社

千葉市総合政策局総合政策部政策調整課
都市アイデンティティ推進室
〒260-8722 千葉市中央区千葉港１番１号
TEL：043-245-5660　FAX：043-245-5476

この冊子は、諸説ある中でさまざまな資料を参照し、総合的に判断して作成しました。
本書の一部または全部について、無断転載を禁じます。

千葉開府 890 1126-2016